

広島県感染症発生動向月報

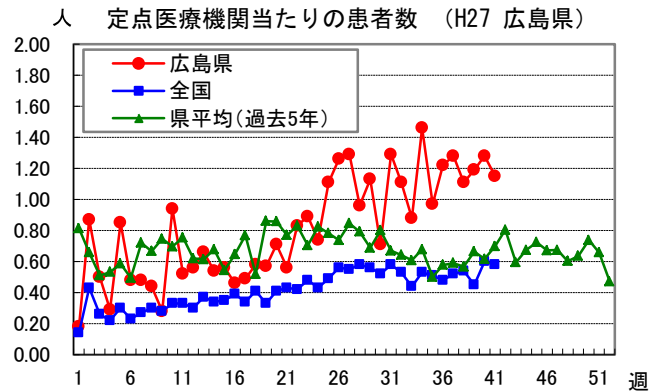
[広島県感染症予防研究調査会]

(平成27年10月解析分)

1 今月のトピックス

流行性耳下腺炎の流行に注意しましょう！！

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の「定点医療機関当たりの患者数」は、例年、年間を通じて同程度で推移しますが、今年の広島県においては、6月上旬より過去5年平均ならびに全国平均を上回るペースになっています。



【病原体】 ムンプスウイルス

【症状】 上気道を介して飛沫感染し、潜伏期は2～3週間とされています。

両側又は片側の耳下腺（耳の下あたり）が腫れ、ものを噛むときに顎に痛みを訴えることが多く、このとき数日の発熱を伴います。また、耳下腺に発赤が認められますが、膿汁の排泄はなく、1～2週間で軽快します。

合併症としては、無菌髄膜炎、脳炎、睇炎、難聴などがあり、成人男性では睾丸炎、成人女子では卵巣炎がみられることがあります。

【感染経路】 患者のせきやくしゃみなどからの飛沫により感染します。

ウイルスの感染力は、強いとされていますが、感染しても発病しない（不顕性感染）場合も多くあります。

【予防方法】 予防接種を受けることが、効果的な予防方法です。しかし、「おたふくかぜ」の予防接種は、任意の接種となりますので、接種を希望される場合は、かかりつけの医療機関に相談してください。

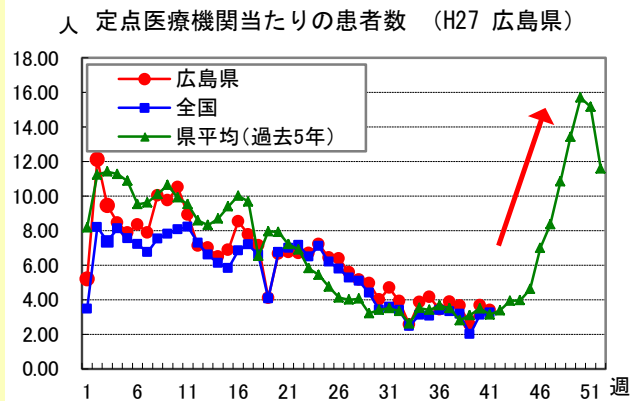
感染性胃腸炎 ～冬に向けて注意しましょう～

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などを原因として、下痢や嘔吐などの症状が出る感染症です。

秋から冬にかけて流行するものの多くはウイルスが原因であり、これからの時期は、ノロウイルスやロタウイルスによるものが増加します。

特に、2014/2015年シーズンのノロウイルスを原因とする食中毒などでは、これまで検出例の少ない遺伝子型のノロウイルスが検出されており、より注意が必要です。

予防対策を徹底し、感染拡大の防止に努めましょう。



【予防方法】

- 1 石けん、流水で、手洗いを、こまめにしていねいに行いましょう。
- 2 食品は十分に加熱しましょう。
- 3 患者の便や吐物を処理する際は、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムでしっかり消毒しましょう。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成27年9月分(平成27年9月7日～平成27年10月4日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	22	0.05	0.01	↑	11	ヘルパンギーナ	187	0.65	0.48	↓
2	RSウイルス感染症	422	1.48	1.06	↗	12	流行性耳下腺炎	348	1.22	0.58	→
3	咽頭結膜熱	48	0.17	0.60	↓	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	495	1.73	0.75	↗	14	流行性角結膜炎	123	1.62	0.90	↗
5	感染性胃腸炎	984	3.44	3.15	→	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
6	水痘	58	0.20	0.64	→	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.06	
7	手足口病	1,041	3.64	1.07	→	17	マイコプラズマ肺炎	31	0.37	0.22	↗
8	伝染性紅斑	101	0.35	0.09	↗	18	クラミジア肺炎	2	0.02	0.00	
9	突発性発しん	128	0.45	0.47	↘	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	—	
10	百日咳	16	0.06	0.05	↗						

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成27年9月分(9月1日～9月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	45	1.96	2.38	↘	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	79	3.76	4.93	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	11	0.48	0.59	↘	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	0.29	0.65	
22	尖圭コンジローマ	11	0.48	0.68	↓	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.11	
23	淋菌感染症	19	0.83	0.97	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前比2倍以上増減)

- 急増疾患 インフルエンザ (0.02 → 0.05)
- 急減疾患 咽頭結膜熱 (0.36 → 0.17)
- ヘルパンギーナ (1.71 → 0.65)
- 尖圭コンジローマ (1.00 → 0.48)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	40	結核(40)〔西部保健所(6),西部東保健所(2),東部保健所(8),北部保健所(3),広島市保健所(13),呉市保健所(4),福山市保健所(4)〕
三類	12	腸管出血性大腸菌感染症(12)〔西部保健所(2),北部保健所(9),福山市保健所(1)〕
四類	24	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕,チクングニア熱(1)〔広島市保健所(1)〕,デング熱(1)〔広島市保健所(1)〕,レジオネラ症(4)〔広島市保健所(1),西部保健所(1),西部東保健所(1),東部保健所(1)〕,日本紅斑熱(17)〔東部保健所(11),北部保健所(1),呉市保健所(3),福山市保健所(2)〕
五類全数	13	アメーバ赤痢(1)〔西部保健所(1)〕,ウイルス性肝炎(A,E型を除く)(2)〔福山市保健所(2)〕,カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(5)〔西部保健所(1),東部保健所(1),広島市保健所(3)〕,クロイツフェルト・ヤコブ病(2)〔西部保健所(1),福山市保健所(1)〕,後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所(1)〕,侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕,梅毒(1)〔福山保健所(1)〕